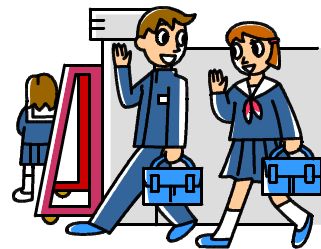


Q 6 不登校対策についての5つの大切なポイントとは何ですか。

平成15年3月にまとめられた不登校問題に関する調査研究協力者会議の報告「今後の不登校への対応の在り方について(報告)」では、次の5つの基本的な考え方が示されています。この考え方は、「生徒指導資料第2集 不登校への対応と学校の取組について - 小学校・中学校編 -」(平成16年6月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター)及び、「生徒指導資料第1集(改訂版) 生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導 - データにみる生徒指導の課題と展望 -」(平成21年3月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター)にも示され、現在もなお不登校対策の重要な柱となっています。

1 将来の社会的自立に向けた支援の視点

不登校の解決の目標は、児童生徒が将来的に精神的にも経済的にも自立し、豊かな人生を送れるよう、その社会的自立に向けて支援することである。



2 連携ネットワークによる支援

不登校への対応に当たっては、学校、家庭、地域が連携協力し、不登校の児童生徒がどのような支援を必要としているのか正しく見極めを行い、適切な機関による支援と多様な学習の機会を児童生徒に提供することが重要である。

3 将来の社会的自立のための学校教育の意義・役割

学校には、将来の社会的自立を目指す上で、対人関係にかかわる能力や集団における社会性の育成などの「社会への橋渡し」、あるいは学びへの意欲や学ぶ習慣を含んだ生涯学習の基盤となる学力を育てることを意図する「学習支援」の視点が必要である。

4 働きかけることやかかわりをもつことの重要性

児童生徒が、自分の力で立ち直る力を信じることが重要であることは当然であるが、自分の力で立ち直るのを何もかかわりをもつこともなく、また、児童生徒の状況を理解しようとすることもなく、あるいは必要としている支援を行おうとすることもなく、ただ待つだけでは、状況の改善にならないという認識が必要である。

5 保護者の役割と家庭への支援

家庭はすべての教育の出発点であり、人格形成の基礎を培う重要な役割を担っているが、不登校の原因を特定の保護者の特有の問題のみに見いだそうとするのではなく、子育てを支える仕組みや環境が崩れている社会全体の状況にも目を向けつつ、個々の状況に応じた働きかけをしていくことが大切である。

どの項目も極めて大切なポイントですが、ここでは、1の「社会的自立に向けた支援」についてもう少し解説を加えます。

【将来の社会的自立に向けた支援の視点が必要な理由】

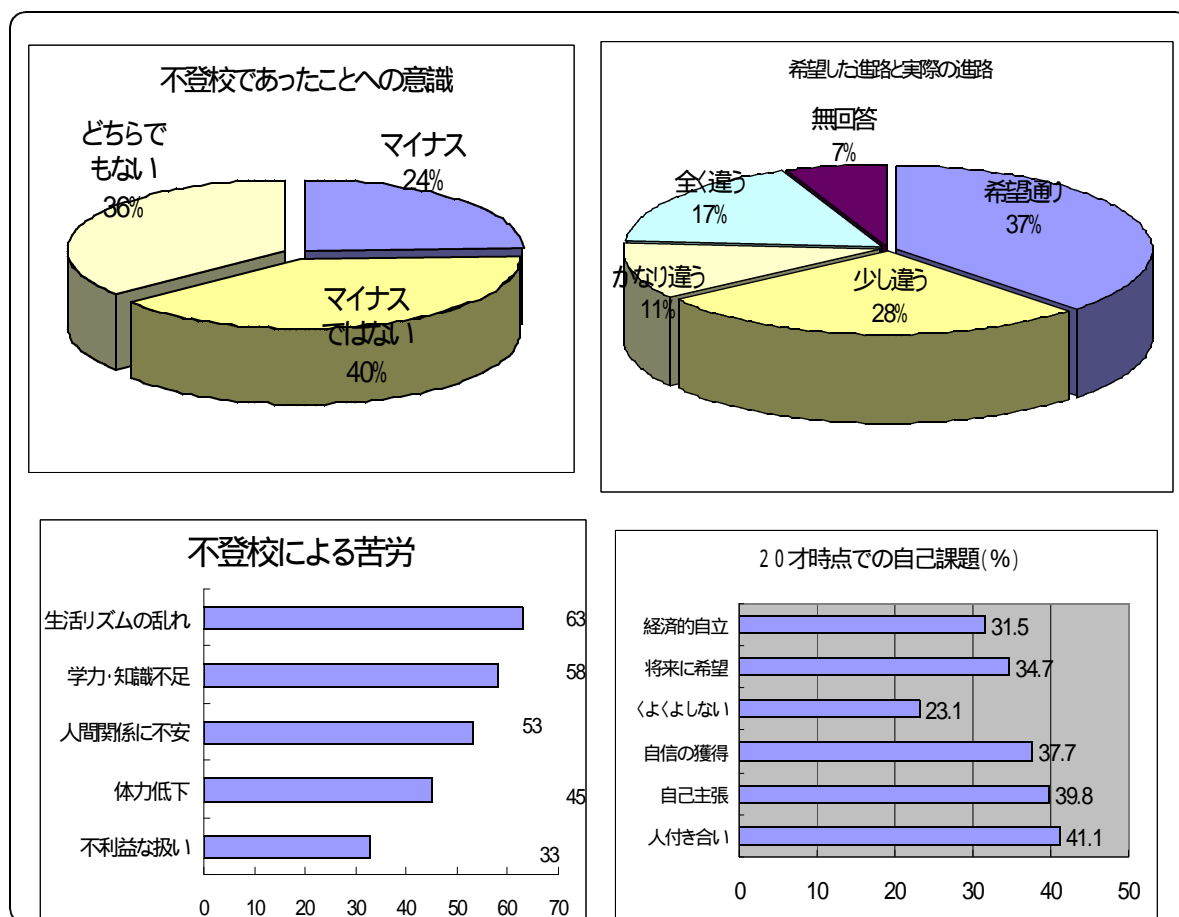
中3の時期に不登校の経験がある20才の青年26,000名を対象にした大規模な全国調査が、平成10年度に行われました。その中で、不登校経験者の多くは、不登校はマイナ

スではなかったとしている者がいる反面、「生活リズムの乱れ(63%)」や「学力・知識不足(58%)」「人間関係への不安(53%)」「体力低下(48%)」など、何らかの苦勞をしていると答えています。(グラフ参照)

また、20才の段階で、就労・就学ともにしていない人が23%います。また、就労している人のうち半数はパート・アルバイトです。将来に向けて自らの生き方を見つけようと思っても、「人間関係に対する不安」「学力の不足」「生活リズムの乱れ」などから、思うように自立した生活ができないでいる人も少なくありません。これらのことから、「将来の社会的自立に向けた支援」がより一層強調されているわけです。

このように、不登校の経験は、延長上に「進路選択上の不利益」や「社会的自立へのリスク」があることを意識し、「進路の問題」としてとらえる視点が必要です。不登校は「心の問題」を解決する視点とともに、本人の進路形成に資するような指導・相談や、それに必要となる学習支援や情報提供等を積極的に行うことが重要となります。一人一人に、自己指導能力を育てることが根底にあることを忘れてはなりません。

つまり、学校は「学習」することを通して学力を高めるだけでなく、「対人関係にかかわる能力」や集団における社会性の育成などの「社会への橋渡し」としての機能をもっているのです。



「不登校児童生徒が自宅においてIT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について(通知)」(平成17年7月6日 文部科学省初等中等教育局長)において、出席扱いの要件の一つに「訪問等による対面指導が適切に行われることを前提とすること」と対面指導が強調されているのも、この考え方によるものです。